

知事との県民対話集会（小谷村）概要

- ・ 開催日時 令和4年11月25日（金） 午前10時30分から正午まで
 - ・ 会場 小谷村役場 多目的ホール
 - ・ 参加者 県民28名、中村小谷村長、阿部知事、早川北アルプス地域振興局長 他
 - ・ テーマ 観光地としての景観向上
- ・ 主な発言（要旨）

【参加者】

- ・ 国道148号の草刈りについて、建設業協会で7月頃行っているが、今頃になると草が伸び、見通しも悪くなる。安全の確保と観光客への印象を良くするためにも歩道と道路の草刈りを行ってほしい。
- ・ ガードレールの更新や白線等の管理をしっかり行い、景観に配慮した事業を実施してほしい。
- ・ 子どもと白馬から小谷まで自転車で来たことがあったが、歩道がガタガタで雑草もひどかったので整備してほしい。

【知事】

- ・ 道路の維持管理は我々がしっかりやらなければならない。歩道なども優先順位の高いところから行っているが、希望に添えていないところもあるのが現状。
- ・ 景観向上については地域の皆さんにも協力してもらいたい。アダプトシステムの取組も増やして行ってほしい。

【参加者】

- ・ スピードを出す車が多い。出勤時にいつもより5分10分早く出ると、スピードを出さなくてすむ。そういうことを県が主導してほしい。
- ・ 横断歩道のない場所でも、道を渡ろうとする人がいる場合、停車してくれたらよいと思う。

【知事】

- ・ 5分、10分前出発は重要なので、交通安全協会や警察での呼びかけに取り入れる等、考えてみる。
- ・ 横断歩道のない場所で停まるのは、自分が停まったとしても反対車線の車が停まらなると危険な場合がある。

【参加者】

- ・ 道路の上に伸びた木の枝に積もった雪が、運転中の自分の車の上に落ちてきて前が全く見えなくなり、反対車線に停車したことがあった。大事故になる危険があるため、なんとかしてほしい。

【塩野入大町建設事務所長】

- ・ 冬期に入る前に、除雪業者と話し合いをして道路に影響のありそうなものは事前に伐採を行っている。道路に出ている部分の全てを伐採することは、予算的な面もあり難しいが、情報をもらえれば個別に対応したい。
- ・ 市町村が地区の要望をまとめているので、予算編成前には市町村とも話をして現地確認もしている。

【知事】

- ・ 直接、地区の方々から話を聞くことが大事。今後、時々このような機会も設けた方がよい。組織的な対応を考える。

【参加者】

- ・防災上の観点からも、地すべりを誘発するような木々を伐採・整備してほしい。景観上も不要な木々を伐採してほしい。
- ・森林づくり県民税の活用方法として、大系線沿線の景観が良くなるように伐採をしてほしい。

【伊藤林務課長】

- ・観光地の景観上の森林伐採は、市町村の事業でやってもらっている。要望に対し順次取り組んでいきたい。

【知事】

- ・森林づくり県民税は、来年以降も継続ということで県議会にもお願いしていこうと思っている。使途の見直しは考えている。

【参加者】

- ・砂防堰堤などの施設について、重要な観光資源として砂防ダムツアー等を行っている。今後ともサポートをお願いしたい。
- ・砂防ダムは観光目的に作られたものではないため、アクセス道路は、狭い道幅、雑草など課題が多い。

【江守姫川砂防事務所長】

- ・案内看板の設置や草刈りなど、建設業協会と連携しながら、引き続き盛り上げていきたい。

【知事】

- ・稗田山の碑まで行ったことがあるが、観光で行く場合、どこへ行ったらよいか、どこから見るのが一番良いのかわからないのでは。県議からは稗田山を活かすよう言われている。地域振興局も考えてもらいたい。
- ・「日本三大〇〇」という資源は、もっと活かさなければならない。災害の記憶や歴史は未来に引き継いでいくことが、防災の面で重要だと思う。こうした施設を一人ひとりの防災意識に繋げ、観光とどう結び付けるか考える必要がある。

【知事】

- ・女性や若者から選ばれる地域ということが重要。子育て世代を皆で支え、女性や若者が活躍できる社会にしていく必要がある。

【参加者】

- ・子育てママを中心とした「おさんぽ会」での意見を伝える。
- ①学校の選択肢がない。美麻のフリースクールに通っている子もいる。小さな村なので受け入れ態勢が整っていない。
 - ②小谷村で出産して小川村や松川村で子育てをするという話がある。小谷村は出産祝い金が多く、小川村や松川村は給食費が無料。地域格差をなくしてほしい。
 - ③オーガニック給食にするとUターン率が上がる。オーガニック野菜を子どもに提供することを検討してほしい。
 - ④空き家の活用を積極的に進めてほしい。
 - ⑤女性が働きづらい社会。子どもの看病や親の介護は女性がやるべきという意識が強い。このため、母親が仕事を休まなくてはならない。男性でも休みが取得しやすい体制を整えてほしい。
 - ⑥子育て女性の起業支援、就業支援をしたらどうか。提案を受け、チャレンジさせてくれる、親身に相談に乗ってくれる行政であってほしい。
 - ⑦「小谷」の知名度を上げたい。小谷は白馬ではない。自然体験保育や散歩会があり、子育てしやすい村としてアピールし、移住につなげていきたい。

【知事】

- ・国の遠隔教育制度などもある。多様な学びの確保についてしっかり考えたい。
- ・子育て応援は、各市町村の自治があるので、まず、市町村内で議論してほしい。
- ・給食のオーガニックや空き家の話は、市町村行政のウエイトが高い。オーガニックの給食については、県で支援ができないか宿題にさせてほしい。
- ・移住しても空き家がないということについては、県も一緒に取り組んでいきたい。
- ・女性が働きづらいことについては、経営者の意識を変えていくようにしたい。女性が働きやすい環境を整備していきたい。

【知事】

・コロナ関係について。現在は、全国旅行支援を行う一方で、医療介護現場は大変になっているという二極化した状況。一人ひとりが基本的な感染対策をしてほしい。

【参加者】

・少し喉が痛い場合、学校を休んで検査を受けなければならない。検査で500円かかる。他の市町村では完全に無料というところがある。無料がダメなら無料検査キットを配布してほしい。
・学校を休む際に、オンライン授業ができればいいと思うが、村では予算がないため、自宅で使うタブレットを購入してもらえない。県で予算を確保しオンライン授業を推進してほしい。

【知事】

・医療費の自己負担については、県と市町村で2分の1ずつ負担し、500円だけお願いしている。都道府県でもバラバラの対応。ナショナルミニマムとして国に対し皆さんも言ってほしい。
・コロナの活動制限については考える。小学生については、軽症者登録センターを使うようお願いしている。学級閉鎖のルールや陰性だった場合の対応等は改善する余地があると思う。
・検査キットは、非課税世帯等は無料配布している。無料の対象にならない方は購入してほしい。
・医療が相当ひっ迫しているため、重症でない場合は受診を控えてほしい。

【知事】

・大糸線をはじめ地域公共交通の課題はこれからの地域課題の中で極めて重要だと思っている。来年4月に交通政策局を新たにつくり、これまで以上に地域公共交通をどう維持発展させていくかを検討していく。国レベルで税金を多くかけるべきだと思う。皆さんも、大糸線をはじめ公共交通を利用して支えるということを是非意識してほしい。

【参加者】

・大糸線の赤字のことが新聞に載っていた。村長や県議に頑張ってもらいたい。

【参加者】

・信州大学の情報系の学部はまだ決まっていない。大学（学部）を創る最後になると思う。しっかり対応してほしい。

【知事】

・県内の高等教育機関が少ないという問題意識は持っている。高等教育機関が設置される場合は、県が補助金を出して応援しているし、文科省の関係者には、大都市から地方にサテライトキャンパスを設けたいと考えている大学があったら教えてほしいと言ってある。